

先生のための夏休み経済教室

2024東京会場

2024年8月20日(火)

慶應義塾大学三田キャンパス

北館ホール

# 金融経済の学習での 教科間・外部コラボを どう進めるか

—高校家庭科、外部コラボ—

筑波大学附属駒場中学校・高等学校 植村徹

# 1. わたくしの基本的な考え

- 「お金」への問題意識
  - 生徒の人生はまだ70～80年続く
  - ウェルビーイングにつながる・つなげる
    - 各自の生活設計に応じたお金との付き合い方
  - (一歩進めて) どのような社会にしていきたいのか
    - サステイナブルも視野に
  - 当たり前だが、「節約、貯める」とあわせて
    - 「借りる、備える、殖やす」の商品特徴の理解が必要

# 1. わたくしの基本的小な考え → 実際

- 従前の「家庭経済」の延長で、家計・生活設計を基本に
  - 収支・貯蓄、リスクマネジメント、資産形成...
    - ただ、多すぎて丁寧には扱いきれず...
- 商品カテゴリー解説に注力しない
  - 生活設計との関連で、「備える」「殖やす」も視野に入る
    - 実際は効果的な「あらすじ」が作れず...
    - サステナブルも、ESG投資に触れる程度など通り一遍に...
- その道のプロを呼んで、話してもらおう
  - ポジショントークに留意
  - できるだけこちらのあらすじにのっていただく 後述

## 2. 実践

### 年間指導計画実績（2023年度 高2家庭基礎）

1学期	2学期	3学期
生活設計・家族	食生活	家庭経済・消費生活
衣生活・消費生活	保育・高齢者 (含、年金制度)	
住生活	家庭経済	生活設計

※補足情報は、当日投影いたします。

# 2. 実践

## 領域実施記録（2023年度 高2家庭基礎）

時数	テーマ	事項
(既習)生活設計・高齢者	ライフステージ、年金	生活設計、リスク、社会保障制度
1家計収支、借りる	家計と生活費	消費支出、給与明細、貯蓄、三者間契約
2備える	ライフステージの収支	(返済方法)+ 生活の中のリスク、貯蓄と保険
3殖やす	資産形成	金融商品の特徴、元本保証、リスクとリターン、投資とSDGs
4-6消費経済	STOP消費者被害	さまざまな消費者問題、事例分析
7借りる	クレジット <b>(ゲスト)</b>	与信、金利と利息、奨学金、個人信用情報
8-11消費経済	STOP消費者被害	啓発チラシ・ビデオ制作・発表

# 2. 実践

## 領域実施記録（2023年度 高2家庭基礎）

時数	テーマ	ねらい
(既習)生活設計・高齢者	ライフステージ、年金	折々の支出と収入、長期計画の必要性
1家計収支、借りる	家計と生活費	生活費のイメージの把握
2備える	ライフステージの収支	生活上のリスクに応じた備え
3殖やす	資産形成	リスクとリターンによる商品選択
4-6消費経済	STOP消費者被害	だます手口・だまされる心理、消費者市民
7借りる	クレジット <b>(ゲスト)</b>	支払い方法と利息、信用情報、 <b>疑問の解消</b>
8-11消費経済	STOP消費者被害	啓発チラシ・ビデオ制作・発表

# 2. 実践

## 領域実施記録（2023年度 高2家庭基礎）

時数	テーマ	教材
(既習)生活設計・高齢者	ライフステージ、年金	生命保険文化センター「事例から考えるリスクマネジメント」 日本年金機構「知っておきたい年金のはなし」、NHKニュースなど
1家計収支、借りる	家計と生活費	総務省「家計収支報告」、植村の昔の給与明細、昔のCIC開示資料 全銀協「シリーズ教材お金のキホン動画 多重債務」などから構成
2備える	ライフステージの収支	生命保険文化センター「事例から考えるリスクマネジメント」 + 日本損害保険協会「明るい未来へTRY!」などから構成
3殖やす	資産形成	証券知識普及プロジェクト「金融クエスト5 将来のために資金を運用しよう」（冊子と動画を使用）など
4-6消費経済	STOP消費者被害	消費者庁「社会への扉」、国民生活センター「くらしの豆知識」、 教育図書・映画「18歳」ほか
7借りる	クレジット <b>(ゲスト)</b>	プロミス「信用と消費者信用」（日本貸金業協会監修資料をプロミスさんが本校用にカスタマイズ）、 <b>本校生徒の質問集</b>
8-11消費経済	STOP消費者被害	啓発チラシ・ビデオ制作・発表

# 2-1. 外部コラボでつくる授業

- **プロの話**を聞けるのは生徒に好機
  - 餅は餅屋 / 授業者も生徒も学習可能
- **授業者の要望**を伝え、事前打合せ
  - 丸投げ? 一部参加? 掛け合い?
  - 一回切りのイベント? スムーズな単元の流れに位置づく?
  - 副教材の中身・扱い方、カスタマイズ
- 生徒に「**自分事**」とさせたい...生徒に作問させる
  - 既習の知識と理解を活かした作問をさせて、先方に事前呈示
  - 当日ご回答いただく ← 授業が疑問解消と検算の場に



# 2-1. 外部コラボでつくる授業

## ●過去の経緯

### ●証券会社 ライフプラン実習／実習を交えた投資の基礎 (約10年前)

- 先方の提案に「抱きつき」で実施。授業も「丸投げ」
- 専門家ならではの内容で、生徒に安心感が得られた
- 単元内で「浮いてしまう」。イベントで終わってしまう

### ●消費者金融 ローンクレジット／家計管理 (約8年前)

- 安心感、満足感は得られた
  - 先方の教材利用で、既習箇所との調整が困難。生徒「これ、やったじゃん」
- おそろおそろ「内容を協議したい」と提案、今に至る
- 全くの未習部分ではなく、既習部分の周辺を扱ってもらうように

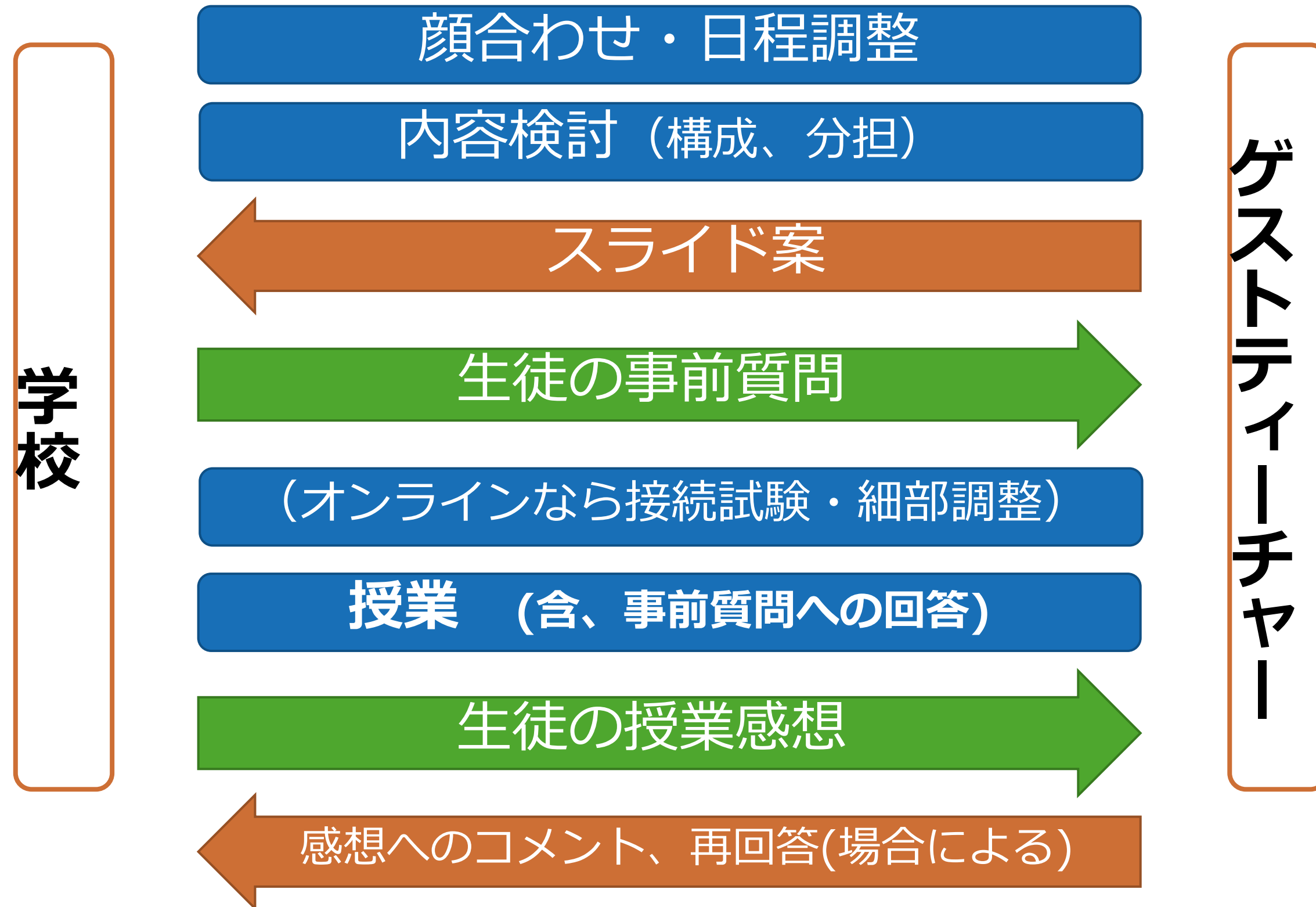
# 2-1. 外部コラボでつくる授業

参考：小貫篤氏（埼玉大学、元本校）のメモより

- 単元に位置づける
- 内容によって、ゲストティーチャーにしてもらうことを変える
- 生徒の提案に実感をもって答えをもらう
- 褒めるのではなく、ダメ出しをしてもらう

「公民科でゲストティーチャーをお招きする際に心がけていること」 （小貫、2023）

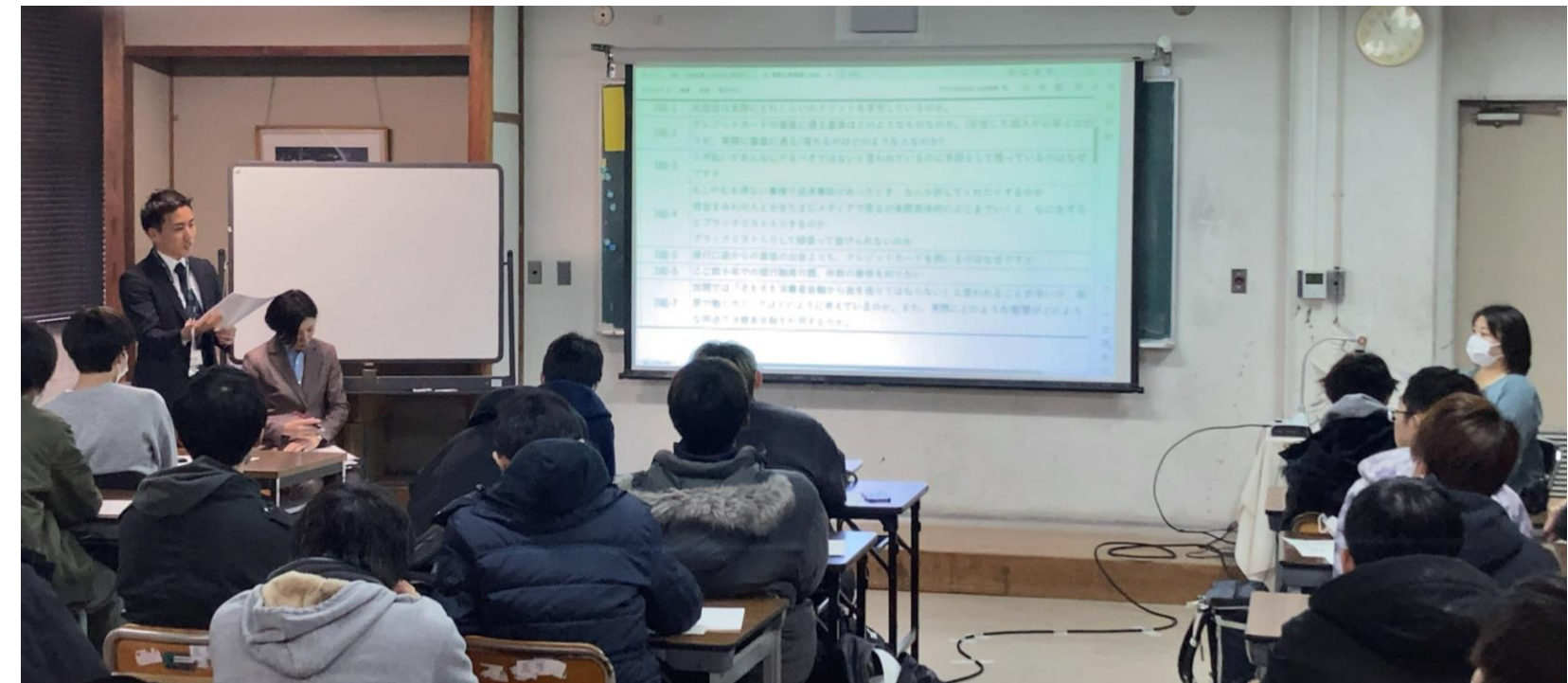
# 2-1. 外部コラボでつくる授業



植村徹(2023)、  
「消費者教育実践セミナー」  
投影資料より。一部改変

# 2-1. 外部コラボでつくる授業

- 事項：与信、個人信用情報、  
金利と利息、金利の高低  
生徒が事前提出した質問への回答
- ねらい：信用情報、支払い方法と利息  
疑問の解消



2024年2月7日、本校にて

- ゲストティーチャー：SMBCグループ様  
(三井住友銀行、SMBCファイナンスサービス、SMBCコンシューマーファイナンス、三井住友カード)
- 副教材：プロミス「信用と消費者信用」 (日本貸金業協会監修資料を本校用にカスタマイズ)  
+ 本校生徒の質問集 (各クラス7問)

# 2-1. 外部コラボでつくる授業

授業前：生徒の質問例 (SMBCグループへ：2023年度)

...ローン・クレジットの事前学習をしたのちに作成

- 「リボ払いがあんなにやるべきではないと言われているのに手段として残っているのはなぜですか」
- 「銀行口座からの直接の出金より、クレジットカードを用いるのはなぜですか」
- 「キャッシングは信用を下げると思ったことがあるが、本当か。キャッシングの宣伝をよく見るが、実際は推奨していないということなのか」

# 2-1. 外部コラボでつくる授業

授業後：生徒の振り返り「授業で新たにわかったこと」 (2023年度)

- 単利と複利という2つの方法があること
- 72の法則を基に、複利計算がすばやく行えること
- 奨学金を延滞すると信用情報に登録される
- 日本でキャッシュレスが進まない理由（現金の利便性・信用、クレカの手数料（店側）が高止まり）
- クレジットカードの審査の基準が会社内でも明かされていないこと
- スーパーホワイトも逆に疑われること



# 2-1. 外部コラボでつくる授業

授業後：生徒の振り返り「授業を受けて他人に伝えたくなくなったこと」  
(2023年度)

- スマートフォンの分割払いの延滞情報も信用情報に登録されること
- キャッシングの金利が高めに設定されているのは、割と妥当なこと  
(リスクを考えると)
- 一括払いを途中でリボ払いに変えて信用を保つこともできる（ただ手数料は増えるが）
- 信用は長い時間をかけて養うけど崩れるのは一瞬

## 2-1. 外部コラボでつくる授業

授業後：生徒の振り返り「授業の内容で、「それは違うんじゃない」と思ったこと」(2023年度)

- 消費者金融で、担保・保証人の不在を理由として金利を高くすることは、より返済しにくくなるので矛盾するのではないか
- 違うというわけではないが、信用の低さによっては、信用情報は事実上のブラックリストになるのでは？
- カード会社がとても儲かるからリボ払いがあると思う。悪だと思う。
- リボ払いが金融機関の収益の柱という話。結局は弱者からの吸い上げで経済が回っているのだな、という感じ



# 3. まとめと課題

- プロと外部コラボをすることで、教員も生徒も最新の知見に触れることが可能に。
- 質問作りは、やらされ感があったとしても、自分事化に有用。
- 生徒はポジショントークに敏感。  
これを「事業者側からの情報を過信することなく批判的思考に裏付けられた意思決定」(学習指導要領解説)の契機に。
- 生徒からの外部の方への感想に、さらにフィードバックを得て生徒に返す、ということがしたい(未実施。現状では生徒は感想を持ちっぱなし。教員がコメントはできるが素人の域を出ない。)